

2021年12月
1167号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

尾崎罎堂先生・相馬雪香先生・一冊の会の精神を未来へ

新型コロナウイルスの発生からおおよそ2年、私たちの生活は大きく変化しております。「対面での人と人との交流」が制限される社会となり、毎月開催していましたが、今年の7月からzoomによるオンラインの櫻華塾を開催しております。大槻明子会長、小山志賀子副会長、石田尊昭理事長をはじめ、静岡大学名誉教授の馬居政幸先生や元久留米大学名誉教授の坂岡庸子先生方をゲストにお招きをし、オンラインではありますが一冊の会のメンバーとお会いして、皆で気持ちを一つに共に勉強をしていけるのは大変嬉しいことです。2021年の年納めの櫻華塾が12月12日に開催され、一冊の会理事長であり、尾崎行雄記念財団事務局長である石田尊昭さんから尾崎罎堂先生、相馬雪香先生、一冊の会の精神について御講義いただきました。



<<石田理事長より>>

最初に12月4日に憲政記念館で開催された「尾崎財団主催・設立65周年感謝の集い」に、コロナ禍での制限にも関わらず馬居先生を筆頭に大槻会長、小山副会長、一冊の会のメンバーが参集して下さったことが大変嬉しく、感謝申し上げます。2022年の春に憲政記念館は引っ越しをし、6年後の2028年に国立公文書・憲政記念館という新たな合築施設が誕生する予定です。民生主義のシンボルである国立公文書館、憲政記念館ですが、2028年に建物は完成しても、そこに最終的に尾崎罎堂の精神が入り、魂を宿さないと憲政記念館とは言えません。尾崎罎堂の精神を入れる為に我々は、尾崎の生き抜いた時代の歴史、憲政記念館が建設された意義に思いを馳せ、そこから民主主義を学び取り、自分の人生に生かしていく、そうすることによって初めて「憲政記念館」が完成します。

【何故、今尾崎罎堂なのか—尾崎罎堂の精神】

2年にもわたり続くコロナ禍によって政治が問われている今日、多くの困っている人・命を日本政府は考えているのでしょうか。政策の施行には国民の納得・信頼・協力が大事。果たして今の政策に国民は納得しているのでしょうか。平時の政治も大事ですが、それよりも大事なものは危機の政治です。政治家の力が問われておりますが、「政治家は有権者である我々の写し鏡」であり、今の社会は我々有権者の責任です。これが「民主主義」なのです。我々の姿勢が大事。ではどのような姿勢が求められるのか、その参考として尾崎罎堂の生き様、精神を再度考えて、そこから学んで今後に生かして頂けたらと思います。

- ① **公共心** 尾崎が常に持ち続けた公共心。国・社会全体の利益を考え、思いを馳せる心です。政治家に公共心が在るか無いかでその国自体が決まるとも言われております。公共心は決して国家の為に尽くせという精神ではありません。世の為人の為に本気で考え、本気で行動した尾崎の精神そのものです
- ② **不屈の精神** 尾崎は63年間に及ぶ連続25回当選という長い政治人生の中で、多くの弾圧を受け困難を乗り越えて来ました。妻が病死した翌年、76歳(1933年)の尾崎は三重遊説中にひどい病気にかかり、心身共に疲弊する中、「人生の本舞台は常に将来にあり」という言葉が浮かび上がったといいます。昨日までは人生の序幕に過ぎず、今日以降がその本舞台。その精神を1954年に亡くなるまで持ち続けました

【相馬雪香の4つの心と一冊の会の精神】

尾崎罌堂の精神を受け継いだ相馬雪香には4つの心がありました

本気の心・純粹な心・利他の心・感謝の心

本気の心が無いと活動は続けられず、自分の利益でなく、困っている人を心より助けたいという純粹であり、利他の心、そして感謝する、そうすることによって初めて民主主義が機能してきます。

「公共心・不屈の精神」を持ち続けた尾崎罌堂のような政治家を我々有権者は責任を持って選ぶ必要があります。自分が当事者になる、その為には我々が本当に困っている人・支援が必要な人を知らないといけません。一冊の会は常に現場に直接赴き、困っている人と直に対話をしているからこそ、草の根で本当に困っている人の支援が持続して出来るのです。58年目に入った一冊の会は大槻会長の公共心、不屈の心、本気、純粹、利他、感謝の心が周りをひきつけ58年にも亘って日本のみならず世界で活動を継続しているのです。その精神の根付く一冊の会だからこそ、「自分も一緒にやりたい！」と思え、その気持ちが未来に繋がっていき、一冊の会が目指している社会にしていけるのです。

<<大槻会長より>>

今日も馬居先生をゲストにお招きでき、石田理事長が講演を下さり、一冊の会のメンバーがオンラインで心ひとつに集う、それは大変嬉しいことで心が温まります。コロナ禍となり早2年となり、感染対策として基本は事務所への入室は一日1人としておりますが、そういった中でも、平間さんや山内さんは通って下さり、活動の支援をして下さっていますこと感謝しております。本日もオンラインの設定やサポートの為山内さんと平間さんが事務所いらして下さいしております。

一冊の会の永久最高顧問である赤松良子先生が今月12月に日本経済新聞の「私の履歴書」に連載をされています。赤松先生の後輩でもある山下泰子先生のみならず、息子からも連載が開始した旨連絡があり嬉しく思います。赤松先生は女性の地位向上に貢献したとして、これまで男性に限るとされていた旭日大綬章の勲章を第一号で受けられました。事務所には赤松先生から頂いた「忘れぬ人々」「続忘れぬ人々」の著書が御座います。以前輪読しましたし、皆さまも当然読まれていると思いますが、是非この機にまた赤松先生の著書を読まれて下さい。

【山下聖士事務局次長、カンボジア特派員へ】

山内事務局次長が奥様の勤務先であるカンボジアへ行かれ、奥様のサポートをしつつ、一冊の会の識字率推進の活動を現地ですされるとのことです。埼玉県音楽教室の先生である一冊の会のメンバーの富永さんが生徒から集めた鉛筆を持って、12月下旬に旅立ちます。今後は暫くの間、カンボジアからオンラインで一冊の会の活動には参加されるとのことです。コロナ禍で大変な中ですが、山内さんからの報告を心待ちにしたいと思います。



山内事務局次長に激励の花束を贈呈(左上)

2021年最後の櫻華塾。嬉しいことに、今回も馬居先生と先生の奥様も同席下さり一冊の会へ温かいお言葉を頂きました。馬居先生からもオンラインの画像を通じて若い人が参集している姿が素晴らしい、石田理事長が若い人へと伝えていくというのは本当に素晴らしいこと、若手はこの講演を是非伝えていって欲しいと激励を頂きました。締めくくりは毎年恒例の第九の合唱です。佐藤玉美さんの歌声に続きオンラインでマイクをオンしてみんなで大合唱致しました。

文責：城杉主任研究員、赤田主任研究員

※掲載記事、写真等の無断転載及び複写を禁止します。Copyright(C)2020 Issatsu no Kai. All Rights Reserved.